

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム遊雅の郷
（ユニット名）	Bユニット
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県薩摩川内市入来町
記入者名 （管理者）	仙名二三子
記入日	平成 21年10月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、自分らしく過ごしていただけるように職員全員で、理念の見直しをおこなった。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に、遊雅の郷の理念について説明。グループホームについてのありかた等を話し合い入居者おひとりお一人がプライドを傷つけることなく、自分らしく過ごしていただくにはどのようなケアをすれば良いかを検討している。また、職員全員で話し合っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居相談時や入居時に遊雅の郷の理念について説明を行い、年3回の遊雅の郷便りに理念を記載している。行事の際などに理念の説明や取り組みについて話をしている。町の文化祭に活動風景や理念を展示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地区コミュニティーセンターや住宅が隣接しており、入居者も自然と朝、夕のあいさつを交わされている。七夕や夕涼み会などを通じ地区の子ども会とも交流をしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の防災会議に参加している。また、地区のボランティアの方々が慰問に来られたり、ふれあい広場に呼んでもらっている。夏の夕涼み会には、ボランティアの方をはじめ民生委員の方にも多数協力をいただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のボランティアに方々の慰問の際や入居相談時に助言などをおこなっている。また、職員が身近なところで相談を受けたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議などで意義について話し合い、自分達の日頃のケアを振り返る良い機会にと全員で意見を出し合い、今後のサービス向上に向け検討、改善をおこなっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事やアクシデントなどの報告の他、安全面、健康維持などについて一緒に検討している。また、外部評価などへの取り組み状況も説明。運営推進会議での助言を施設へ持ち帰りケアに活かすようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に支所からも参加してもらっており、参加できなかった場合は、報告書を郵送している。また、議事録とともに施設行事風景なども薩摩川内市の方へ報告をおこなっている。また、諸手続きなど相談できるように声をかけてもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修などで、勉強をしている。また、関連事業所の社会福祉士に相談協力をもらっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の身体拘束廃止委員会で、抑制がされていないか、チェックをしている。また、施設内研修会や職員会議で話し合い、言葉による抑制なども全員で、検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要説明事項を基にひとつひとつ確認しながらゆっくりと説明している。また、家族会などを利用しご家族から質問のあったことに対し説明を行ったり疑問点はないかお尋ねしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別的に入居者と話をする機会をつくったり、入居者同士で話をされている場にさりげなく参加して、思いを知り、申し送りやカンファレンスなどを通し職員全員で共有し、対応を検討している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の入居料の請求時に施設での暮らしぶりのわかる写真や近況報告を職員が手書きで書いている。また、年3回の遊雅の郷便りを発送。職員の異動なども報告している。臨時の病院受診時や状況に応じて電話報告をおこなっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。来所時に近況を報告したり要望を聞くようにしている。家族会でも要望がないか問いかけを行い、苦情申し立て先についても説明している。ご家族からの要望などについては、職員会議などで、検討している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話や職員会議の際に意見を出し合っている。老健施設の事務長にも参加してもらい助言をもらっている。また、各ユニットで話し合い検討対応することもある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や病院受診など施設でのケアがおろそかにならないようにシフトを組み入れている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、出来るだけ継続して働けるように、職員の相談にのったり環境を整えたりしている。異動が生じた場合は、先輩の職員がしばらく付き指導や助言をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	病院での研修会や関連施設での介護職を対象とする研修会に交代で参加している。施設外研修なども出来るだけ沢山の職員が参加するよう声かけがなされ、研修後は、職員会議で報告を行なっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修時や関連施設での介護職を対象とする事例検討会に交代で参加し、他施設での状況や対応など意見交換が行われている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	認知症勉強会や職員会議などを通し意見交換を行ったり職場の環境やケアの方法、疑問に対して話を聞いている。また、個別的に話を聞いている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全職員が各種委員会に配置されそれぞれが、課題について取り組んでいる。資格取得希望者には、勤務調整などをおこなっている。年2回の健康診断があり健康な状態で働けるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に出来るだけご本人に施設見学に来ていただいている。これまでの生活歴や困っていることなどが無いかなどを聞くようにしている。また、来所できない場合は、面談に行くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学や入居相談時にご家族の不安や思いをゆっくりと聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来所された際に、現在困っていることなどをよく聞き、自施設ですぐに対応できない場合は、他のサービス事業所の紹介や連絡を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に施設見学を勧めている。入居されている方々の生活状況を見ていただき、一緒にお茶なども飲んでいただくこともある。入居後もご家族や友人、知人の面会を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物の作り方や野菜の植え付けなど教えてもらい一緒に作っている。買い物なども天気の良い日は、一緒に行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の思いをご家族と一緒に相談したりして密に連絡を取っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に会いたい、帰りたいなどと言われた時は、その思いをご家族に伝え協力をいただいている。また、ご家族が面会に来られた時は、生活状況などを伝えるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の行事などに参加できるように、ご家族と連絡を取りながら送迎を行っている。地域のボランティアの方々が、来られ馴染みの方との交流を楽しまれている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に散歩したり、毎日レクリエーションをお行い入居者が集まる場を作り楽しめるように援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も家族の方から相談を受けたり、助言を行ったりしている。また、入院をされている方へは、面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、思いを知るようにしている。外出や外泊希望などは、ご家族と協力しておこなっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時だけでなく日頃の会話やご家族の面会時等に昔の様子をさりげなく聞くようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご自分のペースで過すことができるように援助している。健康状態を毎日チェック、排泄パターンをもとにトイレ誘導等もおこなっている。歯磨きやお風呂なども出来ない部分を援助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングしてご本人の意向を確認しながら対応を検討している。また、課題が生じた場合は、その都度カンファレンスを行うようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者、ご家族の生活に対する要望、意向を基に3ヶ月毎に見直しをおこなっている。また、状況の変化に伴いプランの見直しをおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、健康チェックをおこない食事摂取量、水分量、排泄状況を確認し記録している。日中だけでなく夜間も生活状況や思いを記入している。また、ケアプランに沿って記録をするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日の健康チェックをはじめ訪問看護師による週1回の健康チェックが行われ、早目に病院受診が出来るように援助をおこない、出来るだけこれまでの生活が継続できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の避難訓練を通じて消防との意見交換をおこなっている。駐在所からも訪問してもらい「いつでも相談してください」と声をかけてもらっている。町の文化祭にも出展し、隣接の地区コミュニティーセンターを行事で利用。ボランティアグループや民生員の方にも協力をもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	馴染みの理要点や美容室の利用が出来るように支援している。また、訪問理髪も定期的に来られて希望者は、利用されている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	施設訪問や相談など情報交換をおこなっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居申し込み時に確認をおこない、入居時にご本人、ご家族の意思を書面で確認させてもらっている。出来るだけこれまでのかかりつけ医の診療が継続して受けられるように支援している。市外など遠方の場合は、ご家族に協力をもらうようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診時に主治医と相談している。状況に応じ専門医の診察が受けられるように支援している。受診時や状況に応じご家族にも一緒に行っていただき助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり常に連絡が取れるようになっている。また、訪問看護師による健康チェックや相談なども週1回行われている。連携病院より指導、協力をもらっている。状況に応じ、夜間でも相談することが出来る。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の病状説明は、同席させてもらっている。手術時は、その後の状況や退院の時期なども確認し状況に応じて、面会や食事介助にいつている。また、面会時に経過を聞くようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明をおこなっている。また状況に応じその都度主治医とご家族を交え方向性を確認している。また、密に状況報告をおこない、一緒に説明を聞き対応を検討している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族、主治医とともに利用者が安心して過ごせるように訪問看護や訪問診療など状況に応じて検討するようにしている。また、車椅子散歩やレクリエーションなど楽しく過ごしていただけるように支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は、居宅事業所や施設より情報提供をお願いしている。また、施設を移られる場合もこれまでの生活が、出来るだけ続けられるように情報を提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入職時に個人情報の取り扱いについて説明を受け誓約書を提出している。施設内でもプライバシーの保護について研修をおこなっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアを無理強いしないように出来だけ自己決定できるように声かけの工夫をしている。また、入居者のさりげない会話の中から思いを受け止め職員で検討し希望に添えるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせて嫌な思いをされないようにさりげない見守りや声かけをおこなうようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理髪店や美容院が利用できるように支援している。また、2カ月おきに訪問理髪の方が来られ、希望者は利用されている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い献立づくりに活かしている。また、季節の野菜を畑やプランターに植えてあり、大きく育つのを楽しみにされ調理の方法等もリクエストされることもある。また、味付けや調理なども積極的に参加される方もおられる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	施設内は、禁煙となっておりご家族にも協力をいただいているが、行事でのお酒を楽しみにされている。コーヒー等は希望に合わせて出すようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを活用し排泄パターンを考慮しながらタイミングを計り声かけ誘導している。汚染物は、他者の目に触れないようにふたつきのバケツにて処理している。ブライドを傷つけないように注意している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日おきに声かけを行っているが、汚染時や希望時は、随時入ってもらっている。また、湯の温度などご本人の希望に沿うように調整している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、毎日レクリエーションや散歩などに声かけして活動的に過ごしていただけるようにしている。また、夜間ねつけない時は、ゆっくりと話をしたりして傍に寄り添うようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の手入れや読書、折り紙など自分の好きな時間を楽しまれている。これまでの職業を活かし職員に代わってから揚げの味付けからされている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ一緒に行き、自分の欲しい物を選ばれ、自分で支払いが出来るように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花の手入れや施設周りを自由に歩かれている。また、外気の状態を見ながら過ごしやすい時間帯に散歩に行くようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見やイチゴ狩りなどご家族も一緒に参加していただき楽しんでおられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いていただいたり、希望時は電話が出来るようになっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族をはじめ、友人、知人が面会に来られ居室でお茶を飲みながら話をされている。また、ご家族も宿泊されることもある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止推進委員会を設け身体拘束だけでなく言葉による抑制などの付いても話し合い職員会議で、検討お互いに共通の意識の基にケアをおこなっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人でポツンとされることが無いように見守りを行い、声かけや一緒に過ごすようにしている。また、入居者が何処に居られるかを職員間で確認、声を掛け合うようにしている。施設より出て行かれる方は、さりげなく一緒に出るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、職員がお互いに入居者の居場所を確認し声を掛け合っている。外へ出られる時は、さりげない声かけや一緒に出るようにしている。夜間は1～2時間おきに巡回をおこなっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤などは、見えない場所や施錠できる場所に保管。また、ご家族と相談しながら個々に合わせてハサミなどは管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全対策委員会がありインシデント報告にて大きな事故にならないように対策を検討している。また、再発防止に努めている。嚥下機能低下されている方は、毎食前に嚥下体操を行ってから食べてもらうようにしている。避難訓練は、入居者も一緒に参加されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は普通救命講習を受講しており、施設にAEDを設置してある。緊急時対応マニュアルに沿って対応している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者も参加して避難訓練を行なっている。隣接の地区のコミュニティーセンターが、周辺の避難指定場所にもなっている。地域防災会議にも参加している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒アセスメントをおこない、転倒事故の危険性についてご家族へ説明をしている。また、施設より出て行かれる方に関しても危険性と対策について話し合いをおこなっている。嫌な思いをされないように「ダメです」といわないようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、健康チェックをおこない、食事摂取状態や排便状態などもチェックし継続して観察、異常時は、早めに病院受診をおこなうようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬袋に薬の説明書を入れてあり、検温表にもファイルしてある。変更時や臨時薬が出た場合は、申し送りをしている。健康管理ノートに記入するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックシートに記入し、観察している。便秘にならないように食材の工夫や運動をし水分補給にも気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	「出来る、出来ないシート」をチェックし個々に合わせて声かけや磨き残しがないか確認、介助をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、飲水量の確認を各勤務帯でおこなっている。食べられない物は、代替の物を準備したり、調理の工夫や声かけをおこなっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会でマニュアルを作成し、食中毒だけでなくインフルエンザなども流行期前には、勉強会などをおこなっている。利用者、職員は、全員インフルエンザワクチンを接種している。外出時は、マスクをして嗽、手洗いをきちんと行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は、毎食後漂白、消毒している。冷蔵庫も点検、清掃を定期的に行っている。食材の保管の仕方など連携施設の栄養士より指導をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチがあり、誰でもくつろげるようになっている。庭にも花が植えてあり、プランターには野菜や季節の花々を植えて楽しんでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂などに四季折々の花が飾ってあり施設内で季節を感じることができる。また食事中は、静かに音楽が流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関、食堂の傍にベンチやソファが、置いてあり、入居者同士でよく話をされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた日用品やテーブル、椅子などを持ってきていただき、ご家族などの写真を飾られている。神棚やお位牌を持参されている方もおられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の環境整備時やタイミングを計り換気を行なっている。各居室には室温計を置き、入居者の状態などに応じ調整をおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、食堂には手すりが取り付けられており、個々の状況に応じシルバーカーや杖なども使用しておられる。また、必要に応じ車椅子介助もおこなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「出来る、出来ないシート」を利用し、出来ない部分は、やり方を説明したり介助をおこない混乱されないようにしている。また、混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員間で、話し合い対応を検討している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、プランター、菜園に野菜を植え「そろそろ大きくなった。食べごろだよ」と楽しみにされ、季節感を感じられるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設は、のどかな環境の中にあり、季節の移り変わりを周囲の山々や田んぼを見ながら感じることができます。施設でも庭の一角に畑を作り入来町の特産物である金柑も植えてあり、収穫を楽しんでおられます。今年は、築山の筍もはじめて収穫することが出来、喜んでおられました。また、職員一人ひとりが、施設の理念である「地域の中で自分らしく笑顔いっぱい」を基に日々どのように支援していけばよいかを考えながら対応しています。地域の方々も、気軽に声をかけてくださり暖かく見守って下さっています。